

◎ エレクトロニクスソサイエティ

電子情報通信学会会員数の連続的減少はエレクトロニクスソサイエティについても例外ではない。特に本来大いに学会活動が期待される若年層にその傾向が著しい。

エレクトロニクスソサイエティでは、そのような傾向に歯止めをかけ、またグローバル化に対応したより魅力ある学会活動を目指してきた。そのキーワードの一つは学会活動の効果的な電子化であり、種々の方面で検討が進められた。また、ソサイエティ活性化基金の更なる活用も進められた。平成15年度に行った主な活動は以下のとおりである。

(選奨及び独自活動関係)

- (1) ソサイエティ独自の活動であるエレクトロニクスソサイエティ賞では、Siエレクトロニクス分野から谷口研二氏(阪大)、光エレクトロニクス分野から保立和夫氏(東大)、磁気記録分野から村岡裕明氏(東北大)が選定され、9月のソサイエティ大会で授賞式及び記念講演が行われた。また、レター論文賞には才田大輔・高橋琢二各氏(東大)が選ばれ、第4回フェロー推薦については20名の方がフェローの称号を授与されることとなった。
- (2) ソサイエティ活動への地道な貢献に報いるためにソサイエティ功労者表彰制度を本年度から導入することになり、本年度は12名の方に授与されることになった。
- (3) 6関連研究会の合同大会であるサマーミーティングを7月4日に機械振興会館において行った。飯島澄男氏(名城大)による招待講演を含め2セッションで開催し、盛況であった。
- (4) 学会の将来を担う学生会員の学会活動促進のため、ソサイエティ活性化基金による独自活動として、学生海外国際会議参加支援制度が昨年に引き続き行われ、本年度は30名に対し補助が行われ極めて有意義であった。

(論文出版及び電子化関係)

- (1) 従来英文誌のグローバル化、発刊の迅速化、経費節減を目指し、Webを用いたペーパーレス研究速報英文論文誌(電子ジャーナル)(IEICE Electronics Express, 略称 ELEX)を2004年4月から創刊することになり、1月30日より投稿の受付が開始された。
- (2) 従来より見やすく使いやすくするためソサイエティのホームページの見直しを行った。
- (3) 和文論文誌の電子化に関しては、既に1996年以降の電子化が行われていたが、本年度は更に1991年までさかのぼり閲覧を可能にすべく電子化の作業が進められた。

(研究会活動及び国際会議活性化)

- (1) 時代の変化に対応した研究分野を構成し、新たなシーズ創出のための議論の場の構築の一環として、これまでの第一種から第三種までの研究会のあり方や分野の再編などが議論された。第二種時限研究専門委員会「マイクロ波・ミリ波フォトニクス時限研究専門委員会」、「テラヘルツ応用システム時限研究専門委員会」、「次世代ナノ技術に関する時限研究専門委員会」、「シリコン・アナログRF時限研究専門委員会」の平成16年度の設立が承認された。
- (2) 国際活動支援補助金を活用し、国際会議開催支援を積極的に行い、グローバルな学会活動の促進に大いに効果を上げることができた。

◎ 情報・システムソサイエティ

情報・システムソサイエティの平成15年度の活動は以下のとおりである。

- (1) 第2回情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)開催

ISSのソサイエティ大会と情報処理学会(IPSJ)の秋の全国大会を統合したFIT2003(第2回情報科学技術フォーラム)に今年度からヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)が主催団体として参加し、9月10日から3日間にわたり札幌学院大学(北海道江別市)において開催した。

講演件数は1,099件で昨年度に比べ236件の増加で、また本大会の特色である査読論文制度のより一層の充実を図り計画どおり実行できた。

運営面では投稿・登録・査読業務、会場での発表等電子的手段を用いて運営された。イベント企画として、常識推論の基礎を築き、革新的なフレーム理論等人工知能の先駆的な成果を挙げられたMITのMarvin Minsky氏、開催地を代表して高橋はるみ北海道知事の特別講演を実施し立見席(500名の会場)がでるほど盛況であった。

また、船井業績賞、船井ベストペーパー賞、FIT論文賞、FITヤングリサーチ賞を選定・表彰した。

一方財政において、収入面では講演件数の増加、エキストラページ費・査読付き論文採録者別刷代の新設、開催校からの補助金、地元からの出展が多かったこと、支出面では発行物制作、運営費、企画費等支出を抑えることができたこと、開催校から会場・機材等無償提供を受けたこと等により、約500万円の黒字を得ることができた。

- (2) 第4回ソサイエティ論文賞の表彰

ISSでは、ソサイエティの独立性、活性化を図る施策として、サーベイ論文、先見論文、連作論文を選定対象とするソサイエティ論文賞を設立している。14年度は連作論文1件を選定し、9月10日FIT会場において表彰式を行った。今年度はサーベイ論文1件を選定した。

- (3) 第4回フェロー贈呈式及び第5回フェロー候補者推薦

上記FIT開催地の札幌学院大学において9月10日フェロー贈呈式を行い23名の方々にフェローの楯を贈呈した。第5回フェローについては、推薦を寄せられた中からISSフェロー推薦委員会において審議し、21名の方々をフェローノミネーション委員会へ推薦する予定である。

- (4) 財務基盤改善・課題

ISS財務基盤の確立に向けてISS財務改善WG、ISS編集会議を設置し、論文誌関連の経費削減、電子ジャーナルの有料化、総合大会・FITの収支構造、技術研究報告予約価等について検討を行っている。

- (5) 国外学会との提携

国際交流に尽力し、韓国情報科学会(KISS)との交流協定締結を推進している。

- (6) ソサイエティ活動功労賞

多数の査読を行った査読委員等、ソサイエティの活動について顕著な功績があったものに対して情報・システムソサイエティ活動功労賞を贈呈すべくソサイエティ選奨規程の検討を行っている。

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

平成15年度は、ヒューマンコミュニケーション基礎研究会(HCS)、ヒューマン情報処理研究会(HIP)、マルチメディア

ア・仮想環境基礎研究会(MVE), 福祉情報工学研究会(WIT)の四つの第一種研究会, 及び一つの第二種研究会「インタラクションによる知識の創生に関する研究会(KCI)」, 及び一つの第三種研究会「手話情報学研究会(SiLE)」にて, グループとしての連携を一層強め, 関連分野の研究活動の促進に努めた。具体的には, ヒューマンコミュニケーショングループのロゴを作成し, 更にグループ全体としてヒューマンコミュニケーション賞を制定した。ロゴは, グループ内外から公募して, 8件の応募があり委員内で議論・投票の上, 決定した。ヒューマンコミュニケーション賞は, 第一種研究会の発表から, 50件につき1本の割合で, 各研究会幹事団の投票の上, 決定した。また, 情報・システムソサイエティと情報処理学会が共催する「情報科学技術フォーラム; FIT」には, 共催メンバーとして参加した上で, WITから特集企画「こんなものが欲しい, 福祉情報システム」を企画・実行した。

また, HCG傘下の全研究会による恒例のHCG大会を, HCGシンポジウムと名称を変更し, 特別企画「会話情報学: 会話を中心とする新しいインタラクション・コンテンツ融合技術の展開」と「情報機器アクセシビリティ関連JISの最新動向とその影響を探る」を開催し, HCGの新しい方向性への模索を進めた。また, 英文論文誌EDに「ヒューマンコミュニケーション」特集号を企画し, 37件の投稿を集め, 20件を採録した。更に, 他学会にはない試みとして, 研究会の情報保障を進め, WITでは聴覚障害者のための手話通訳や要約筆記, 視覚障害者のための点字資料作成, 盲ろう者のための指字通訳などを試みてきた。なお, 従来どおり2回のニューズレターを発行し, またホームページの充実もあり, これらを使って学会員へHCG活動を積極的にPRした。

1. 大会に関する事項

1.1 総合大会

期日 平成15年3月19日(水)～22日(土)

会場 東北大学川内北キャンパス(仙台市)

参加者 5,393名

講演件数

大会委員会企画	2 課題	3 講演
ソサイエティ特別企画	6 課題	25 講演
パネル討論	11 課題	52 講演
チュートリアル講演	11 課題	53 講演
一般講演		2,973 講演
シンポジウム講演		196 講演
合計		3,302 講演

懇親会 仙台エクセルホテル東急(仙台市) 参加者 225名

1.2 ソサイエティ大会

下記の期日・会場において基礎・境界, 通信, エレクトロニクスの各ソサイエティが合同して開催した。なお, 情報・システムソサイエティ及びヒューマンコミュニケーショングループはソサイエティ大会とは別に情報処理学会と合同してFIT(情報科学技術フォーラム)2003を9月10～12日に札幌学院大学(北海道江別市)において開催した。

期日 平成15年9月23日(火)～26日(金)

会場 新潟大学五十嵐キャンパス(新潟市)

参加者 3,221名

懇親会 ホテル日航新潟(新潟市) 参加者 178名

(1) 基礎・境界ソサイエティ大会

パネル討論	17 講演
チュートリアル講演	19 講演

一般講演 198 講演

シンポジウム講演 29 講演

合計 263 講演

(2) 通信ソサイエティ大会

特別企画 15 講演

パネル討論 21 講演

チュートリアル講演 32 講演

一般講演 1,137 講演

シンポジウム講演 59 講演

合計 1,264 講演

(3) エレクトロニクスソサイエティ大会

特別企画 3 講演

チュートリアル講演 9 講演

一般講演 451 講演

シンポジウム講演 48 講演

合計 511 講演

1.3 FIT(情報科学技術フォーラム)2003

下記の期日・会場において情報・システムソサイエティ, ヒューマンコミュニケーショングループ及び情報処理学会が合同して第2回のFIT2003を開催した。

期日 平成15年9月10日(水)～12日(金)

会場 札幌学院大学(北海道江別市)

参加者 1,969名

懇親会 札幌学院大学G館8Fラウンジ 参加者 170名

イベント企画

特別講演 2 講演

研究会提案企画 6 課題 18 講演, パネル討論 19 講演

委員会提案企画 3 課題 9 講演, パネル討論 4 講演

現地提案企画 1 課題 2 講演, パネル討論 4 講演

船井ベストペーパー賞選考会 10 講演

情報技術レターズ 155 講演

一般講演 944 講演

2. 国際会議に関する事項

次のとおり開催した。

会議名	開催年月日	参加者数	論文数	場所
International Symposium on Autonomous Decentralized Systems 2003 (ISADS2003)	2003.4.9～11	120	38	ピサ(イタリア)
COOL Chips VI	2003.4.16～18	195	42	横浜情報文化センター
2003 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC2003)	2003.7.7～9	557	504	韓国:フェニックスノーク
第11回テラヘルツエレクトロニクスに関する国際会議(THz2003)	2003.9.24～26	212	135	仙台国際センター
第16回光ファイバセンサ国際会議(OFS-16)	2003.10.13～17	312	199	奈良:奈良新公会堂
第25回国際電子通信エネルギー会議(INTELEC'03)	2003.10.19～23	408	129	パシフィコ横浜
International Working Conference on Active Networks 2003 (IWAN2003)	2003.10.29～31	71	32	奈良:奈良新公会堂
第5回アジア太平洋情報通信シンポジウム(APSITT2003)	2003.11.25～26	130	90	ニューカレドニア大学(ニューカレドニア)